

## 令和5年度 学校教育自己診断のまとめ

回答率は、保護者 74.6%（昨年度 79.1% 一昨年度 54.0%）、教職員 92.2%（昨年度 92.3% 一昨年度 94.1%）であった。保護者の回答率が昨年比 4.5 ポイント下がったが、過去 10 年間では 50%台での推移であり、一定の維持ができていていると思われる。

項目全般にわたって、29 項目中 26 項目が 90%以上の肯定的意見（全項目の 89%）であり、昨年度の 85%から 4 ポイント高くなっている。

項目別にみると、学習指導・学校に対する項目については、「お子さんの様子から、学校へ行くことを楽しみにしていると感じられる」「お子さんは、授業がわかりやすく楽しいと感じている」に関して、肯定的意見はそれぞれ 97%、95%（昨年度 97%、97%）と引き続き 95%以上の高評価である。また、「お子さんの日常生活について学校との意思疎通は十分できている」は 98%（昨年度 96%、一昨年度 91%）と上昇しており、学校に対する信頼感と期待感が感じられる。加えて、今年度特徴的であったのは、「学校は肢体不自由児教育の専門性を備えている」の項目で 99%（昨年度 91%）と 8 ポイント上昇し、教職員アンケートの結果も 86%（昨年度 79%）と 7 ポイント上昇しており、保護者、教職員の双方が肢体不自由児教育における専門性を有していると回答していることである。

次に進路指導・キャリア教育について、「学校は、小学部から発達段階に応じた生きる力をつける教育（キャリア教育）の推進ができていている」に関しては 94%（昨年度 98%）と 4 ポイント減少し、「学校は将来の希望や職業などについて適切な指導を行っている」は 90%（昨年度 87%）と 3 ポイント上昇した。

安全・安心な学校づくりについては、「学校は、児童生徒の健康・安全について、適切に対処している」が 98%（昨年度 94%、4 ポイント上昇）「学校は、子どもに生命を大切に心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」が 98%（昨年度 95%、3 ポイント上昇）「学校は、日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している」が 99%（昨年度 97%、2 ポイント上昇）であった。いずれの項目も 98%以上の高評価であり、ここでも学校安全に対する信頼と期待が強く感じられる。

また、ICT の活用や防災、学校 HP に関する項目については、それぞれ 69%（昨年度 79%）、94%（昨年度 96%）、82%（昨年度 84%）であった。ポイント減少を真摯に受け止め、今後の対策を考えていきたい。

学校運営等についての項目では、97%（昨年度 92%、5 ポイント上昇）であった。

最後に働き方改革に関する新設の項目では、保護者は 95%の高評価であり、学校の働き方改革の推進に対する認識と理解がかなり進んでいることが見て取れた。一方、教職員アンケートでは 74%と保護者アンケートとの開きは大きいですが、肯定的意見の回答としては 70%を超える高い数値であり、教職員自身の認識と意識も進んでいると考えられる。